

# 布部小学校 研究概要

令和5年12月6日

## 1 研究主題

自分の考えを大切にし、主体的に学び、表現する子どもの育成

## 2 主題設定の理由

### (1) 今日的な課題から

将来の変化を予測することが困難な時代を前に、子どもたちには、社会の変化に受け身に対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、よりよい社会と幸福な人生を自ら作り出していく資質・能力を身に付けさせる必要がある。そのためには、教育を通じて、解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解ける力を育むだけでは不十分である。社会の加速度的な変化の中でも、蓄積された知識を礎としながら、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められる。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う臨時休業からの学校再開後、まず求められたのは、学校教育が児童生徒同士の学び合いの中で行われていることを踏まえ、教育活動を進めていくことであった。同じ空間を共にすることで、お互いの感性や考え方に触れ、刺激し合うことの重要性について改めて認識された。現行の学習指導要領、そして、令和3年1月の中央教育審議会答申（令和の日本型学校教育について）においても、見通しをもって粘り強く取り組み、子ども同士での協働、対話によって自分の考えを広げ、深めながら課題を解決していく授業づくりが大切であるとされている。

今日的な課題を受け、「主体的・対話的で深い学び」を大切にされた授業改善により、「生きる力」の育成が、学校で求められている。

### (2) 安来市の取組・学校教育目標より

#### 安来市の学力向上の取組

##### <めざす授業像>

めざす授業像を「子どもと共に創る授業」とし、教師主導の『教えた』を子ども主体の『学びたい』へと授業の転換を図る。

##### <めざす子ども像>

目指す子ども像を「ワクワク グングン ワイワイ 学ぶやすぎっ子」とし、学力向上の取組を進めていく。それぞれのフレーズが示す姿は以下の通りである。

- ワクワク学ぶやすぎっ子：一人ひとりが意欲をもち楽しんで学習に向かう姿
- グングン学ぶやすぎっ子：一人ひとりが自己の学びを調整し、確かな学力を身につけた姿
- ワイワイ学ぶやすぎっ子：子どもたちが協働的な学びを通してわかっていく姿

<学校教育目標>

豊かな心を持ち、すこやかで、たくましく生きる子どもの育成

<めざす学校像>

“なりたい自分”を支え合い、笑顔があふれる学校

～温かい校風を大切に～

<めざす子ども像>

考え行動する子ども(知) 励まし助け合う子ども(徳) 強く、やりぬく子ども(体)

(3)児童の実態<個人情報削除>

強み	弱み

(1)～(3)の実態・課題を受けて

(1)(2)の方針や(3)の実態をもとに、めざす学校像にある“なりたい自分”に向かって、子どもたちが意欲的に楽しみながら学べるような授業、問いとその解決方法を見出しながら進んで考えようとする授業、学習状況を客観的に把握し学びを調整しようとする姿が現れるような授業づくりについて、研究を進めていくこととした。授業では、「子どもが自分の思いや問いをもつこと」「自分の思いや問いを適切に表現すること」「他者の考えを受け止めること」「他者の考えに対する自分の考えをもち、伝え合うこと」など、対話を大切に、教師の関わり方を工夫することにより、子ども同士で主体的に授業が進められるよう取り組んでいきたい。

授業の中心となる「対話」については、各教科の見方・考え方を視点・手がかりとして子どもたちの思考が広がり、深まることを目指していくこととする。そして、この2年間は、社会科、算数科、特別な教科道徳を

研究の中心教科として取り組んでいく。また、その3つの教科だけでなく、学校の教育活動全体を取組の場としてとらえ、様々な場面で「対話」を中心として子どもを育てていきたいと考えた。

そのためには、温かく友達を大切にする学校の風土を基盤として、まずは児童一人一人の思いや願い、考えを大切にする学びを実現していきたい。そして、互いが自分の思いや願い、考えを表現すること、それを受け止め、大事にしながら再構築していくことは、個人だけでなく集団としての学びの深まりや満足感を得られると考える。

以上をふまえ、今年度の研究主題を、伝え合うこと・聞くこと(対話)についての取組を中心とした「**自分の考えを大切にし、主体的に学び、表現する子どもの育成**」に設定した。

### 3 主題の捉え方

- 「自分の考えを大切にし」 :自分の考えを構築する姿。  
⇒周りの考えを聞き入れる(大切にする)。  
⇒再思考したうえで、より一層自分の考えを大切にする姿。
- 「主体的に学び」 :問いに対して、先を見通しながら、進んで解決しようとする姿。
- 「表現する子ども」 :自分の考えを伝えたり、書いたりするなど、様々な方法で表現しようとする姿。

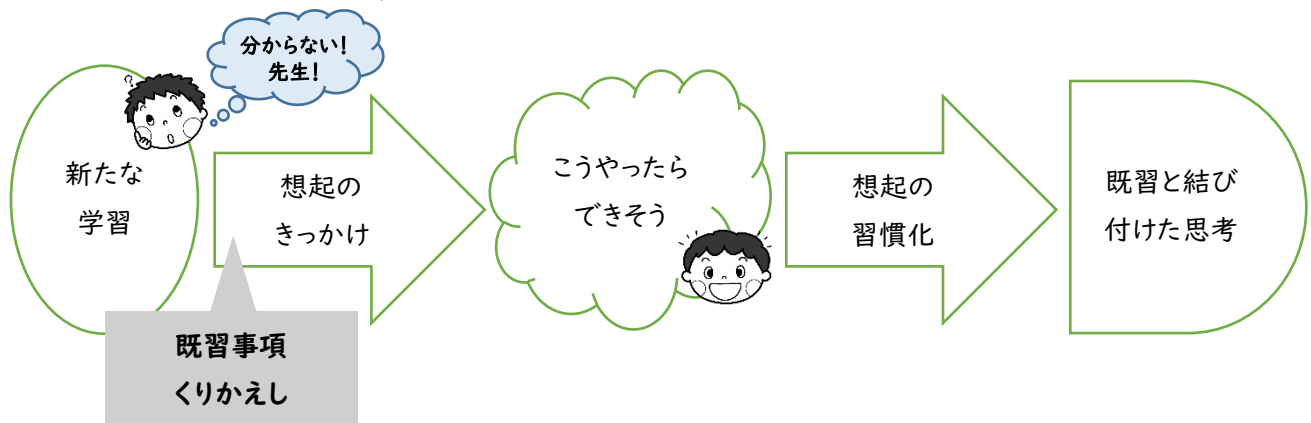
### 4 研究概要

#### (1) 研究仮説

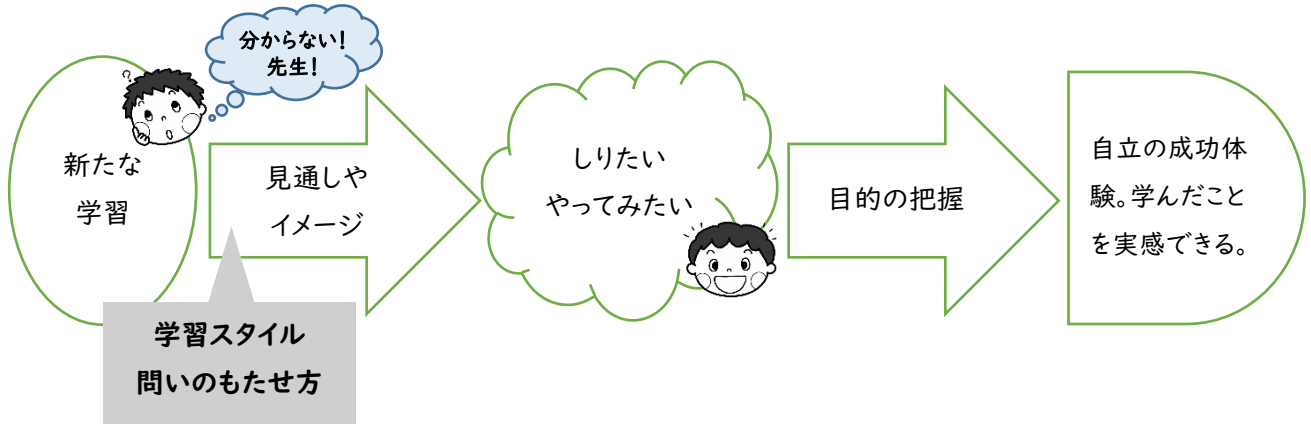
- 学習をすすめるために必要となる知識や技能を整理して、子どもたちの実態に合わせて想起させる手立てをとる。教師の働きかけと同時に児童自らが使える方法を考えたり対話の中で以前の学習との関連に気づかせたりすることで、既に身につけている知識や技能を活用して思考する習慣、自ら学ぶ力が身についていくであろう。
- 正解を求める学習ではなく、学習の過程を大切にし、納得解や最適解で学習がゴールするような仕掛け(切実な課題、ねらいの共有、自分の考えをもつ習慣、学習や活動・他者とのつながりを意識できる流れ)をつくることで、自分の考えを大切に(自分のことばで自分の考えを表現)しながら、先を見通し進んで解決する姿がみられるであろう。

#### (2) 手立て

- 授業づくりの視点～関わり、つながりを意図的に～
  - ①学びのつながり(既習事項を活用し、くりかえし学習することで力つく。ゴールの姿、目標を達成した子どもの姿をイメージし、授業のプランを考える。)

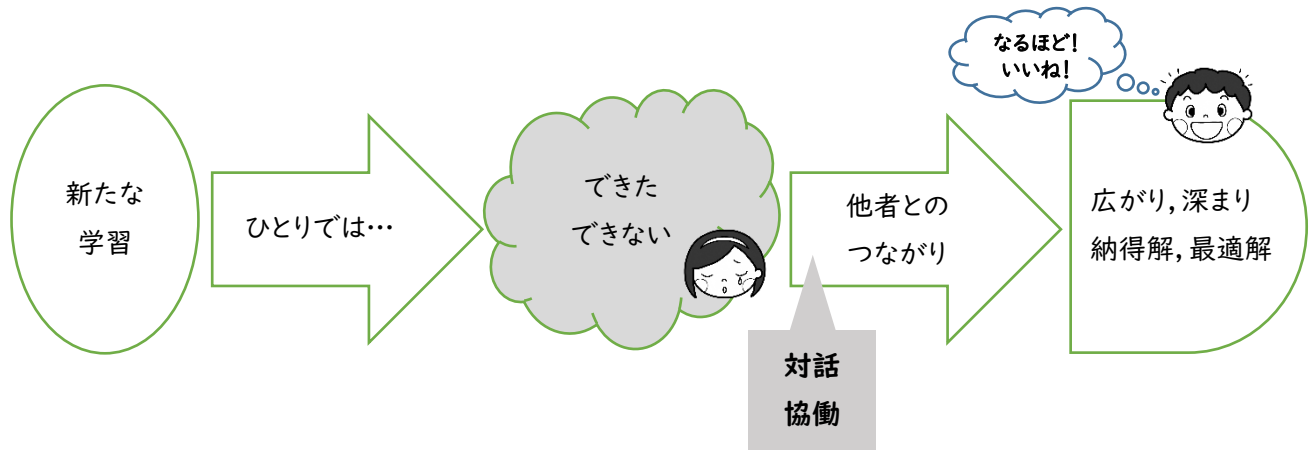


②活動のつながり(学習活動に共通したスタイルがあることで、単式学級⇔複式学級と変化したり、教師がつけない場面があったりしても児童自らが学んでいける)



③他者とのつながり(対話し、協働しながら自分の考えを深めていけるような学習)

→少人数の本校では、つながる相手やつながり方も工夫する。自分自身、他学年の友達、他校の友達、家族、地域の人、協働学習者としての教師とのつながり、ICT活用など。



○「自分のことばで自分の考えを表現できる」を支えるために

表現することで、思考が整理され、深まり、新たな気づきが生まれる。表現することで他者と関わりながら主体的に学ぶことができる。そこで、表現する力を育むための取組を工夫する。

① 目的意識をもった継続的な取組

場面	相手(だれに)	目的(なんのために)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・放送(朝のスピーチ)</li> <li>・毎日の学習(対話, ふりかえり)</li> <li>・集会(クラブ, たてわり班)</li> <li>・地域との交流(あいさつ, お礼, 感想)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同級生</li> <li>・他学年</li> <li>・教師(協働学習者として)</li> <li>・講師・指導者</li> <li>・家族や地域の方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感情を伝えたり, 共有したりするために</li> <li>・目標達成のための視点を明確に               <ul style="list-style-type: none"> <li>└ 過程を表現したいとき</li> <li>└ 根拠を表現したいとき</li> <li>└ 掘り下げて考えたいとき</li> <li>└ 広く知ってもらいたいとき</li> </ul> </li> </ul>

## ② 方法

本年度は、次のなかからたくさんの経験を積んでいけるようにする。①の目的意識にそってどのような表現方法がよいかを児童自ら選んで使っていけるような取組の経験を重視する。

- ・つぶやき
- ・自由な発言と一人思考
- ・話し合い
- ・思考ツールをつかって
- ・図・絵・文のミックス
- ・ネーミング
- ・ICTを活用して
- ・2文で、
- ・思考と、接続詞・感嘆詞などのつながりを意識させる

まず・つぎに・・・	列挙	ほかに・・・	広がり
だから、すると・・・	順接	実は・・・	一般化
でも、しかし・・・	逆説	それぞれ・・・	多様化
たとえば・・・	例示	あわせると・・・	統合
もし、もしも・・・	仮説	～するために・・・	方法
		まてよ!・・・	新たな気づき, 再考
		ちがう・にてる・・・	異・同

## (3) 実際の取組

### ○全校での取組

- ・「きいてかえす」「2文で返す」を合言葉に伝え合おうとする意識を高めている。
- ・全校スピーチ, 全校道徳, 行事後のふりかえり, 朝の放送のスピーチなどを通して, 伝え方の共通理解を図る。

### ○算数科での取組

- ・図や絵などで, 自分の考えを表現し, 友達に伝える場を授業の日常とする。
- ・ガイド学習におけるガイドの役割と教師の関わりを工夫し, 子どもたちが自ら進め, 課題解決する授業を展開する。

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ・自分たちで進める力がついてきている。
- ・自分の考えを図や絵などで表現できるようになってきている。

### (2) 課題

- ・どの教科にも応用できる学習スタイルの確立。
- ・その教科特有の支援についての検討。

## 5 参考文献

- ・文部科学省「教育課程企画特別部会 論点整理」
- ・文部科学省「学習指導要領の趣旨の実現に向けた 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する 参考資料」
- ・文部科学省「小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 総則編」
- ・中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す, 個別最適な学びと, 協働的な学びの実現～」(答申)
- ・全国へき地教育研究連盟「平成 30 年度版 実践事例集『豊かな学びの継承』」
- ・奈須正裕「個別最適な学びと協働的な学び」
- ・志田倫明「算数授業のパーパス思考」
- ・全国算数授業研究会「『自立した学び手』が育つ算数の授業」